



薬の伝言板

薬とお酒について



No. 347 2026年10月

丸子中央病院 薬局

皆さんは「薬とお酒を一緒に飲んではいけない」と聞いたことはありませんか？
「なんとなくダメなのは知っているけど、実際どうなんだろう？」と思われる方へ、
今回はお酒が薬に与える「3つのいたずら」のメカニズムと、よくある疑問にお答えします！

【前編】お酒が薬に仕掛ける「3つのいたずら」

薬とお酒を一緒に飲むと、体の中（主に肝臓や脳）で予想外のトラブルが起こります。その理由は大きく分けて3つあります。



① 脳がリラックスしすぎる

お酒を飲むと、脳の神経が休まってリラックスする効果があります。薬の中にも睡眠薬、抗不安薬、抗アレルギー薬など、同様に脳を落ち着かせる作用のあるものがあります。これらを一緒に飲むと、脳を落ち着かせる効果が足し算・掛け算になって強く出過ぎてしまい、激しい眠気、ふらつきによる転倒、ひどい時には意識が朦朧とするなど大変危険です。



② 肝臓の奪い合いで「大パニック」

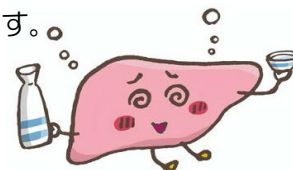
薬もお酒も基本的に肝臓で分解されます。お酒を飲むと、肝臓はアルコールの処理にかかりきりになり、薬の処理が後回しになります。その結果、薬が体内に長く残り過ぎて効果が強く出てしまうのです。

例1. 解熱鎮痛薬（アセトアミノフェン等）

肝臓に大きな負担がかかり、肝障害のリスクが高まります。

例2. 経口血糖降下薬（グリメピリド、メトホルミン等）

薬が効きすぎて低血糖を起こし、命に関わります。



③ 悪酔いの毒が溜まる「ストップ現象」

アルコールが体内で分解される途中にできる「アセトアルデヒド」という物質は、頭

痛や吐き気を引き起こす悪酔いの原因物質です。

一部の抗菌薬などには、このアセトアルデヒドを分解する酵素の働きをストップさせてしまうものがあります。お酒と一緒に飲むことで、お酒に強い人であっても激しい頭痛、動機、吐き気など、猛烈な悪酔い状態に陥る危険があります。

【後編】「薬とお酒」のよくある質問（FAQ）

Q1. お酒を飲んでから時間を空ければ、薬を飲んでも大丈夫？



A. 「少し空ける」くらいでは、アルコールは体内から抜けていません。

体重や体質にもよりますが、ビール1缶（500mL）のアルコールが体から完全に抜けるには3～4時間以上かかります。

「ビールを飲んで2時間経ったから、寝る前に睡眠薬を飲もう」というのは、実は一番危険なパターンです。

Q2. どうしてもお酒を飲みたい日は、自分の判断で薬をお休みしても良い？

A. 絶対に自己判断で薬を休まないでください。

薬を休むことで、治療中の病気（高血圧、糖尿病、心臓の病気など）が悪化するリスクがあります。お酒を飲むのを避けるか、お酒を飲んでから十分な時間（個人差、飲酒量にもよりますが3～4時間以上）を空けてから服用しましょう。

Q3. お酒と一緒に飲んでも良い薬ってある？



A. 原則として「お酒と一緒に飲んで良い薬」はありません。

影響の出方に大小はありますが、全ての薬はお酒（アルコール）の影響を受けます。医療機関で処方される薬だけでなく、ドラッグストア等で購入できる市販の風邪薬や痛み止めも同様です。薬は基本的には「水」または「ぬるま湯」で服用してください。



嗜好品としてのお酒は日常生活に欠かせない方も多いかと思いますが、健康第一、薬による治療が最優先です。
自己判断で薬を中断したり、お酒と薬と一緒に飲んだりしないようにしましょう。

文責 薬局 羽毛田